

2018 年度 パイオニアコース活動



第1回「ファーストチャレンジ ダッチオープンでこだわり料理」

会場：川崎市黒川青少年野外活動センター（神奈川県川崎市）

5/27(日)

まずはチームのメンバーで自己紹介や自己分析ワークからスタートし、どんな仲間がいるのかを知る時間をつくりました。そのあとは、炭をおこしてダッチオープン料理に挑戦！豚バラのコーラ煮、かぼちゃまるごとカレーなど、こだわりの料理が完成し、みんなでウェルカムパーティーをして一年のスタートをお祝いしました。最初は少し固い表情の子もいましたが、おいしい食事に会話も弾み、幸先のいいスタートをきることができました。



第2回「マリンチャレンジ シーカヤックで海原に漕ぎだせ」

会場：三浦 YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ

6/23(土)~24(日)

初日はテント設営からスタートでしたが、外はあいにくの雨。でも、そんなことをものともせず土砂降りの中でテントを設営し、食事もガスバーナーで作りました。二日目は待ちに待ったシーカヤックにチャレンジ。海況は決してよいものではありませんでしたが、パイオニアコースのみんなにはちょうど良い負荷だった様子で、みんないい表情で挑戦していました。肌寒い中でしたが、びしょびしょになりながらのシーカヤック体験となりました。



第3回「登山チャレンジ 東京都最高峰『雲取山』を目指せ」

会場：雲取山（東京都奥多摩）

9/16(日)~17(月)

スタートは久しぶりの再会で、少しぎこちなさもある中、パイオニアコース前半のビックチャレンジとなりました。重い荷物を担いでまずは山小屋へ移動し、小学生は山小屋泊、中学生はテント泊に挑戦をしました。翌朝は夜が明ける前から行動開始。ヘッドライトを照らしながらの移動に、みんな緊張していましたが、全チーム無事に山頂まで登ることに成功！下山もチームでリミットタイム内のゴールを目指して歩ききることができました。



第4回「フィッシングチャレンジ 海の幸を釣り上げろ」

会場：野島公園（神奈川県横浜市）

11/10(土)~11(日)

24時間は各チーム自由に過ごしなが、食材は海の幸を釣り上げることができなければご飯なし！という課題に対して、みんな必死に釣りに励み、各チーム何とか魚を釣り上げることに成功。しかしながら、釣果には差があり、少ない量をみんなで分けるチームもありました。いずれにせよ、与えられて時間を思いっきり使い、釣りにチャレンジできました。釣り上げた魚は全て自分たちの手で捌いて、おいしくいただきました。



第5回「スノーチャレンジ 氷点下の雪洞泊」

会場：国立妙高青少年自然の家（新潟県妙高市）

1/5(土)~7(月)

はじめてみる豪雪地に興奮しながら、初日は思いっきり雪遊び！遊びを通して道具の使い方を覚え、2日目にはそのスキルを駆使して、雪洞作り。計画を立ててスタートするも、大きくなりすぎて苦戦するチームもありました。しかし、何とかチーム全員が眠ることできるサイズの雪洞が完成し、夜はドキドキの中、雪洞泊に挑戦です。「快適だった」「眠れなかった」意見は様々でしたが、普段はできない体験をすることができました。



第6回「ファイナルチャレンジ 30km オーバーナイトチャレンジハイク」

会場：川崎市生涯学習プラザ
～黒川青少年野外活動センター（神奈川県川崎市）

2/16(土)~17(日)

スタート前のアンケートでは、練習をあまりしてきていないようで、不安もある様子が、各チーム準備を整えてスタート。計画を立てて進みますが、深夜の行動に思うように進むことができなくなってきます。チェックポイントでは、毛布に包まってうとうとしてしまう子もいましたが、眠気、疲れ、寒さに耐えながら、みんなで声をかけあって少しずつゴールに向けて歩みを進めていきました。ゴールする頃には、もう朝になっていて、足どりはかなり重くなっていましたが、なんとか全員が無事にゴールすることができました。



★参加者の声



パイオニアコースでは年間を通じて、『チームコンパス』というやり方で、目標設定や振り返りをしてきました。『チームコンパス』に出てきた声を紹介します。また、最終回の決意表明も一部抜粋します。

【第6回ファイナルチャレンジ～30km オーバーナイトチャレンジハイク】

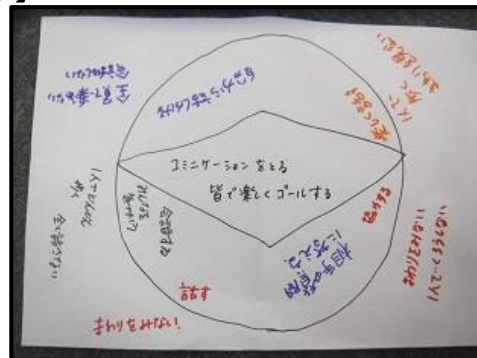
★コミュニケーションをとり、みんなで楽しくゴールする。

そのためには・・・

- *自分から話しかける
- *みんなを気遣う
- *相手の質問に答える
- *協力する
- *楽しく話す

良くない行動は？

- *一人でどんどん歩く
 - *周りをみない
 - *全員で楽しめない会話をする
- など。



★振り返りシートより決意表明 ※一部抜粋。

「私は、自分で挑戦することを見つけ、挑戦力を養っていくことをここに誓います。そして私は、高校生になったらボランティアとして参加をし、いずれ100kmチャレンジハイクをやり遂げるとここに宣言します。」

「富士山に登ってみたいです。自分の夢だし、30kmも歩くことができ、自信もついたのでチャレンジしてみたい。」



★保護者の方の声

コース変更等をして予定通り活動を催行してくださって、ありがとうございます。雲取山など、家族では行けないし、まして悪天候の後ならば、絶対に行けなかったと思います。さすが、NOTS だなあ・・・と思いました。家では「もう死ぬかと思ったよ～・・・」と言っていました。また、カウンセラーのおっしゃるとおり、心で思っている間に、あっという間に一歩踏み出すチャンスが過ぎてしまう事、よくあると思います。NOTSの活動では、そのチャンスがたくさんあると思うので、息子が今後の活動で、成長できたらと思います。次回も元気に参加したいです。
(第3回 登山チャレンジ 中学1年生男子)



先日はお世話になりました、ありがとうございました。釣果はぼちぼちだったようですが、今回もとても楽しんできたようです。学校行事などではいつも事細かにスケジュールが組まれていてそれに従うしかないけれど、今回24時間をどう使うか自分たちで決められるのがとても新鮮だったようです。時にはハードミッションもあって体力的にキツイ場面もあるけれど、できたときはもちろん、できないことも含め nots のキャンプは楽しい、と言っておりました。見守って下さるスタッフの皆様、ありがとうございます。夜中にラーメン食べ損ねたのが唯一心残りだったようです(笑) 次回もよろしく願いいたします！

(第4回 フィッシングチャレンジ 小学5年生男子)

★キャンプカウンセラーより



「衝撃のパイオニアコース」

キャンプネーム：くろ

はじめパイオニアコースの内容を聞いた時に、とても負荷が高いプログラムだと衝撃を受けました。実際にやってみると大人でも大変なことが多かったです。それでも子ども達が一生懸命取り組んでいる姿を見て感心しましたし、自分も負けてられないと思わされました。くろ班は勢いで何とかすることが多く、計画的に物事を進めることが私も含めて苦手でした。その場の勢いでやってしまうため班でまとまって成し遂げるよりも、個人プレーで乗り切ることが最初の頃は多かったように思います。しかし、振り返りを通して、メリハリつけることや相手のことを考えることなど、改善点を意識することで、徐々にですが班として機能していくことができました。子ども達が、そして班が成長するたびに自分も少しずつ成長することができました。キャンプカウンセラーとして頼りないことも多々あったと思いますが、一年間本当に楽しく良い経験ができました。ありがとうございました。



「チームだからできること」

キャンプネーム：ザビ

目の前の課題に対して自分たちはどうしたいのか、そのためにそれぞれがどう行動していくかを考える、子どもたちもそして大人たちも、常に試されているパイオニアの環境が、私はとても気に入っています。今年度特に印象的だったのは、スノーチャレンジでした。それぞれが自分とそして仲間の特性を良く認識し、多くの声かけや助け合いの中で、チーム目標に向かってそれぞれが尽力していく様子は、パイオニアコースのテーマである「最高のチーム」をよく表現していました。そして最終日のソリ遊びでは、多くの苦楽を共にした仲間と全力ではしゃぐ、子どもたちのこれまでで一番の笑顔がありました。仲間がいるから頑張れる、仲間がいるから楽しい、そんな感覚を子どもたちがこれからも大切にしてくれたらと思います。1年間ありがとうございました。



★ディレクターより



小澤（アポロ）

パイオニアコースの一年間が終わり、ほっとしたのと同時に、一緒にやってきた仲間や子ども達との時間が終わってしまうことが、寂しくも思います。ダッチオープンで作ったおいしい料理、シーカヤックでの海遊び、雲取山までの長い道のり、釣りをした24時間、雪洞の寒さ、30km オーバーナイトハイクでゴールしたときのみんなの顔。どれも鮮明に覚えています。まさに、かけがえのない時間を、かけがえのない仲間と過ごすことができたのではないのでしょうか。みんなががんばったことは、「挑戦力」という形で身についています。どこかで、パイオニアコースでの経験が活かされることでしょう。また、キャンプで出会えるのを、楽しみにしています。

